

Title	橋本喜作 紐育株式取引所
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.2 (1919. 2) ,p.274(126)- 275(127)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190201-0126

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

かほどまで議會の問題となつたのは始めてであらう。然るに政府當局及び議員諸氏の云ふ所、多くは目前の消極的調節策に囚はれて根本に到らず遠きに及ばざるは遺憾と云ふ可ききである。而して講和會議を論ずれば只政治外交の問題として之を云ふ。國民の經濟的生活を離れて政治外交抑々何ぞ、政治と云ふも外交と云ふも何れも吾人の生活を幸福ならしめんとする手段ではないか。パンを離れて政治も外交もあつたものでない。吾人の見る講和會議は正に斯くの如くである。)

批評と紹介

橋本喜作著『紐育株式取引所』

大正七年十一月グイヤモンド社發行
四六版二百六十三頁定價金二圓七十錢

今次戦争勃發前に於ては北米合衆國は歐洲諸國に對して巨額の債務を負つて居つたのであるが、開戦後同國より多量の軍需品を聯合國側に供給せし結果として、前日の債務國は遽かに一大債權國と化し、米國が今日歐洲及び南米諸國に貸付たる金額は數百億圓に上ると云はれて居る。而して、此巨額の海外放資は紐育を中心として行はれて居るが爲め、同市が戦後に於て世界金融市場に占む可き地位は戦前に於ける英京倫敦の夫れに比す可きものあるやも測り難いのである。否な、世界金融の中心が近き將來に於て倫敦より同市に移るに至るであらうと豫言する者さへある。若し果して然らば、戦後に於ける紐育株式取引所の繁盛も逆睹し難くはない。

茲に紹介せんと欲する橋本氏の著述は此紐育株式取引所の組織に關する一般の説明を中心として、米國實業及金融事情の一斑を叙説せるものである。著者は此取引所のみならず、取引所外に於て行はる、株式取引市場として世界に最も有名なる

理財學會々報

理財學會例會 大正七年十一月十九日午後二時大講堂に於て開催す。阿部教授の開會の辭に次ぎ左記諸氏の講演あり。相當の聴衆を見る。

- 一、戦時に於ける獨逸社會黨 田中萃一郎君
 - 一、物價と通貨 山本梯次郎君
- 五時頃閉會し次で萬來會に晚餐會を開く。阿部教授を中心として歡談を交へ七時過散會す。

講演者が兩氏とも多忙の爲め參會なかりしは遺憾とする所なり。
晚餐會出席者。阿部教授、三年幹事 神戸、二年幹事 中津古内、奥谷、青木、奥井。

紐育市のカーブ・マーケット、並に劣等株の取引市場たる同市のコンソリデーター株式取引所に就きて、各其の發達の歴史組織、立會の方法、市場に於ける仲買人の地位、上場株の性質、仲買人の手数料等を通俗的に略述せるが、行交流暢にして、各項の記述簡なるも要を盡して居る。殊に我國に於ける株式取引の方法に精通せる著者は米國有價證券市場の實情を描寫するに同時に、我國の習慣と對比して隨處に短評を加へたるを以て讀者の受くる印象を深くするに少くなくならうと思はれる。取引所の説明以外に、本書には紐育取引所定款の全文を譯載し米國屈指の大會社たる合衆國製鋼株式會社及びユニオン・パシフィック鐵道會社の内情を略叙し、米國事業及び金融界の巨頭たる故ゼー・ビー・モルガン、チャールズ・エム・シュワツプ、セー・デー・ロツクフェラー及びアドリユー・カーネギーの四氏の略傳を掲げて各氏の功績を明かにし、且つ巻尾に附録として『戦時中の米國財政』なる題下に開戦後に於ける米國金融膨脹の梗概を述べて居る。

本書中紐育市の株式取引に關する記事は曾て大阪毎日新聞の紙上に載せられたものであるが、著者は之を一纏めになし、更に其他の事項を添加し一冊として梓したのであるが、全篇の記事論述は皆な有益の文字にて一般讀者の參考に資する所尠からぬものであると思ふ。